

2019 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学
美術工芸学部

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7
		21113	箔	2	1	後	演習	12
		21213	日本画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	13
		21214	日本画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	15
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	21
		21223	油画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	25
		21224	油画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	29
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	42
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	44
	必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	45
		21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	46
		21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	47
彫 刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技	48
		22113	彫刻Ⅰ－Ⅰ	5	1	前	実技	49
		22114	彫刻Ⅰ－Ⅱ	7	1	後	実技	53
		22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	56
		22214	彫刻Ⅱ－Ⅱ	6	2	後	実技	59
		22215	構成	1	2	後	実技	62
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
		22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
	必修専攻 専門関連	22121	絵画(彫)	2	1	前	演習	72
		22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	73
		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
	選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
芸 術 学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	76
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	78
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	81
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	87
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	88
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	89
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	90
	選択主要	23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	前	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112
	選択専攻 専門関連	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	281
		23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	282
		23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	284
		23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	285
		23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	287
		23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	288
		23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	290
		23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	291

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	113
		24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	116
		24114	立体造形(デ)	2	1	後	演習	117
		24115	素描(デ)	1	1	後	実技	118
		24116	色彩構成	2	1	後	演習	119
		24117	空間構成	2	1	後	演習	120
		24223	デザインⅡ－Ⅰ	7	2	前	実技	121
		24224	デザインⅡ－Ⅱ	7	2	後	実技	127
	必修専攻 専門関連	24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	147
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	148
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	149
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
工芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	150
		25113	色彩	1	1	前	実技	151
		25114	立体構成	1	1	前	実技	152
		25101	工芸Ⅰ	7	1	後	実技	153
		25209	工芸Ⅱ	5	2	前	実技	158
		25261	立体造形(工)	1	2	前	実技	164
		25262	版画	1	2	前	実技	165
		25221	染Ⅰ	7	2	後	実技	167
		25231	織Ⅰ	7	2	後	実技	185
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25211	陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	209
		25212	窯業化学	2	2	後	講義	226
		25241	漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	228
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
	必修専攻 専門関連	25102	絵画(工)	2	1	前	演習	251
		25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	252
		25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	253
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	330
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	331
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	44
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	255
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	260
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	263
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264
彫 刻	必修主要	22112	彫刻ⅠB	7	1	後	実技	—
		22212	彫刻Ⅱ	13	2	通年	実技	—
		22312	彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	63
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
		22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
	専攻専門 関連	22207	デザインB	2	2	前	演習	—
		22208	工芸B	2	3	前	演習	74
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	270
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論B	2	1～4	後	講義	273
		22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274
芸 術 学	必修主要	23112	実技研究	5	1	後	実技	77
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習A（英語）	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B（独語）	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C（仏語）	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D（伊語）	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A（古文書）	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B（漢文）	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C（ラテン語）	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
芸術学	選択主要	23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	277
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概説 C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概説 C	2	1～4	後	講義	278
		23447	漆芸概説 C	2	1～4	後	講義	279
デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論 A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論 B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	325
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G 基礎	2	2～4	後	演習	317
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
工 芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	208
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25172	絵画史概説	2	1～4	後	講義	323
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324
		25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325
		25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講
全専攻対象（一部専攻除く科目あり）	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	前	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	後	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	後	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	前	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	前	演習	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	後	演習	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	講義	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	前	講義	314
		24181	環境造形論	2	1～4	後	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	演習	326
		24184	人間工学	2	2～4	後	演習	327
		24251	図学	4	1～4	通年	演習	316
		24252	C G基礎	2	1～4	後	演習	317
		25162	図法及び製図	2	2～4	後	演習	328
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 28 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説 A	2	1～4	前	講義	256
		21432	日本建築史概説 A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論 A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論 B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説 A	2	1～4	前(集中)	講義	260
		21437	染織工芸史概説 A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論 A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論 A	2	1～4	後(集中)	講義	263
		21440	漆芸概論 A	2	1～4	後	講義	264
彫 刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説 B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説 B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説 B	2	1～4	前(集中)	講義	270
		22427	染織工芸史概説 B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論 B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論 B	2	1～4	後(集中)	講義	273
		22430	漆芸概論 B	2	1～4	後	講義	274
芸 術 学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習 A (英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習 B (独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習 C (仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習 D (伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究 A (古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究 B (漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究 C (ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	通年	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	通年	講義	108
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	通年	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	通年	講義	112
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
芸術学	選択専攻 専門関連	23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概説 C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概説 C	2	1～4	後(集中)	講義	278
		23447	漆芸概説 C	2	1～4	後	講義	279
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論 A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論 B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G 基礎	2	2～4	後	演習	317
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
工芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25434	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25442	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25172	絵画史概説	2	1～4	通年	講義	323
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講
		25174	現代芸術概説 A	2	1～4	後	講義	324
		25175	現代芸術概説 B	2	1～4	前	講義	325

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 28 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象（一部専攻除く科目あり）	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
自由科目	デザイン	24203	絵画C	3	2～4	通年	演習	334
		24204	彫刻C	4	2～4	前	演習	334
		24205	工芸D	4	2～4	通年	演習	334
		22203	絵画A	3	2～4	通年	演習	334
	彫刻	22204	デザインB	3	1～4	通年	演習	334
		22205	工芸B	4	2～4	通年	演習	334
		25203	絵画D	3	2～4	通年	演習	334
	工芸	25204	彫刻D	4	2～4	前	演習	334
		25205	デザインD	3	1～4	通年	演習	334
		23101	絵画B	3	2～4	通年	演習	334
	芸術学	23102	彫刻B	4	2～4	前	演習	334
		23103	デザインC	3	1～4	通年	演習	334
		23104	工芸C	4	2～4	通年	演習	334
		21203	彫刻A	4	2～4	前	演習	334
	絵画	21204	デザインA	3	1～4	通年	演習	334
		21205	工芸A	4	2～4	通年	演習	334
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
芸術学	必修主要	23228	日本美術史特講	2	2～4	前	講義	111
		23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
		23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
	選択専門関連	23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	280
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
デザイン	必修主要	24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢB	7	3	後	実技	139
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173
		25421	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25431	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25441	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166
全専攻共通	選択専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全 専 攻 共 通	選択 専門関連	24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
自由科目		21201	絵画	3	2～4	通年	演習	333
		22201	彫刻	4	2～4	前	演習	333
		24201	デザイン	3	1～4	通年	演習	333
		25201	工芸	4	2～4	通年	演習	333
		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分		授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁
学部	選択科目	共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	257 312
			視覚伝達概論A 視覚伝達論A（印刷）	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	258 313
			視覚伝達概論B 視覚伝達論B（映像）	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	259 314
			環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	269 315
			日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	302
			西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	305
			C G基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	317
絵画専攻	必修科目	主要科目	日本画Ⅳ	15	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	20
						香川亮	准教授		画家	
						関谷理	講師		日本画家	
			油画Ⅳ	15	実技	田中睦治	教授	複数	美術家	39～41
						知花均	教授		版画家	
						高崎賀朗	准教授		画家	
彫刻専攻	必修科目	主要科目	彫刻Ⅳ	15	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	68
						砂川泰彦	教授		彫刻家	
						河原圭佑	講師		彫刻家	
						長尾恵那	講師		彫刻家	
			彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	70
						砂川泰彦	教授		彫刻家	
						河原圭佑	講師		彫刻家	
芸術学専攻	選択科目	主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	92
			芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	93
			日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	94
			日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	95
			芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	108
			日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	110
デザイン専攻	必修科目	主要科目	デザインⅢA	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	133 134
						高田浩樹	准教授	単独	デザイン事務所主宰	133 135
						又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	133 136
						宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	133 137
						座波嘉克	教授	複数	プロダクトデザイナー	133 138
						（インターンシップ）		複数	インターンシップA・B	133
			デザインⅢB	7	実技	又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	139 140
						高田浩樹	准教授	単独	デザイン事務所主宰	133 141
						仲本賢	教授	複数	映像作家	139 142
						又吉浩	准教授		映像作家	139 142
						赤嶺雅	教授	複数	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	139 143
						（インターンシップ）		複数	インターンシップC・D	139
工芸専攻	必修科目	主要科目	染Ⅲ	15	実技	渡名喜はるみ	教授	複数	染色家	182～184
						名護朝和	教授		染色家	
			織Ⅲ	15	実技	真栄城興茂	教授	複数	染織家、織工房主宰	202
						花城美弥子	准教授		染織家	205
			陶芸Ⅲ	15	実技	山田聡	教授	複数	陶芸家	223
						島袋克史	講師		陶芸家	
			漆芸Ⅲ	15	実技	糸数政次	教授	複数	漆芸家、県工芸振興センター勤務 （1990～2013年）	246～248
						水上修	教授		漆芸家	
						當眞茂	准教授		漆芸家	

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25231	織 I	7 単位 後期	2	実技	真栄城 興茂 花城 美弥子 非常勤講師

■テーマ

織物の基礎と展開

■授業概要

天然繊維、天然染料等の素材研究、並びに織技法の実習を行う。

■到達目標

- ・織物素材の理解を深めると共に緯絛や織物組織等の織技法の習得を目指す。
- ・意匠設計や製品開発等の研究成果を踏まえ、沖縄の伝統技法を基礎とした独自の表現力の向上を図る。

■授業計画・方法

1. 染色実験 染色用具及び糸精練方法を学ぶ
 2. 染色実験 デルクス染料、スレン染料での糸の染色
 3. 染色実験 色見本帳作り レポート提出
 4. 組織 織組織について理解を深める
 5. 組織 織物組織図作成
 6. 組織 応用織演習
 7. 組織 講評会 レポート提出
 8. 着尺 織物デザイン 経糸準備
 9. 着尺 緯糸準備 製織
 10. 着尺 洗い張り、アイロン仕上げ
 11. 着尺 講評会 レポート提出
 12. 仮仕立て 着物の基本 各部分名称等の理解
 13. 仮仕立て 寸法確認 裁断
 14. 仮仕立て 縫い作業
 15. 仮仕立て 講評会 レポート提出
- 定期試験は実地しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・課題説明・講評を無断で欠席した者は評価しない。
- ・各実習の詳細については該当ページをみること。
- ・やむを得ず欠席する場合は必ず学科室に連絡すること。
- ・各実習の終了時に作品を提出し、自己評価を含め講評を行う。

■成績評価の方法・基準

□方法 作品 50%・平常点 30%・レポート 20%で総合的に評価する。

平常点は参加状況を総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

各課題の評価をもとに織教員の合議により総合判定する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 染色実験プリント 着尺プリント 仮仕立てプリント

□参考文献 手織りの実技工房 吉田鉦三

□その他 参考作品

- 【実習名】 染色実験
【期 間】 10月1日(火)～10月30日(水)
【教 室】 織工房2・共通染場
【担 当】 花城美弥子 與那嶺利菜（非）
【課 題】 化学染料にて糸のデータ染色を行い、色見本帳作りを行う。

【授業概要】 （テーマ）

絹糸、羊毛糸等の動物繊維、綿糸等の植物繊維の染色方法を習得する。
各種繊維に関する染料、助剤を知り、効果的な染色方法を習得する。

【到達目標】

- ・各繊維に適した染色方法を理解する。
- ・各種染料の染色方法を学ぶ。
- ・染色工程を理解し、安全面に気をつけ、効率よく作業を行う。

【授業計画・方法】

- 1 課題説明・染色用具説明
 - 2 綿糸精練
 - 3 糸準備 絹・小総作り
 - 4 糸準備 綿糸・羊毛糸小総作り
 - 5 デルクス染料 絹糸・濃色
 - 6 デルクス染料 絹糸・淡色
 - 7 デルクス染料 羊毛・濃色
 - 8 デルクス染料 羊毛・淡色
 - 9 スレン染料 綿糸・濃色
 - 10 スレン染料 綿糸・淡色
 - 11 インジコピュアーの建て方
 - 12 インジコピュアーの染色
 - 13 見本帳作り 糸配布準備
 - 14 色見本帳作り 羊毛バタフライ作り
 - 15 色見本帳作り ファイル作成
- 講評 色見本帳、レポート提出

【成果物】

- ・色見本帳 レポート

【評価の方法・基準】

□方法

平常点20% 色見本帳60% レポート20%

□基準

染料や薬品の取り扱い、適切な染色方法を理解できたか。
安全面に気をつけて、効率よく作業工程をこなす事ができたか。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□参考資料 色見本帳

□参考文献 工芸染色ノート 繊維と染織・糸、布染めの基礎 柳悦孝・假屋安吉 美術出版社

【実習名】組織

【期 間】11月5日(火)～11月15日(金)

【教 室】織工房2, 3・コンピュータ室

【担 当】中嶋 鉄利 (非)

【課 題】手織機・自動織機の仕組みと装置の構造を学ぶ。合せて織物組織の設計図を理解できるように学習し、専用シミュレーションソフトの操作方法を習得し、組織図を作成できる知識と技術を深める。また、学習したスキルを基に、自身のオリジナル織物組織図を設計して、それを制織し確認する。

【授業の概要】 (テーマ)

各種織機の仕組み構造を理解し、正しく活用できるようにする。また、専門的な織物組織図を読んで理解出来るようにする。合せて専用ソフトの操作方法を習得し、織物設計図の理解を深めるようにする。これら学習したスキルを活用・応用して、各自がオリジナルの織物設計図を制作出来るように指導し、その織設計による織組織表現の仕組みを実際の手織して確認、理解する。また各自設計した織物組織を用いて自由作品を制作し、この実技実習の体験を通して応用力を付ける。

【到達目標】

- ・織機の構造と仕組みを理解し、効果的な道具の活用方法を理解する。織物設計表を各自で作成できるようにすると同時に、専門的な織物組織図も理解できるようにする。
- ・組織設計専用シミュレーションソフトを操作できるように演習し、応用活用できるようにスキルアップする。
- ・独自のデザインと組織の工夫をした上で各自織物組織図を制作し、それを活用して糸・織機等準備の後制織し確認する。
- ・三原組織・変化組織・自由設計組織を制織し、組織織見本帳を制作する。

【授業計画・方法】

- 1 織機の構造と、織組織 前期
- 2 織機の構造と、織組織 後期
- 3 織物設計 前期
- 4 織物設計 後期
- 5 織物組織図作成演習 (シミュレーション用ソフト) 前期
- 6 織物組織図作成演習 (シミュレーション用ソフト) 中期
- 7 織物組織図作成演習 (シミュレーション用ソフト) 後期
- 8 織機整備・糸準備演習 前期
- 9 織機整備・糸準備演習 後期
- 10 基礎織演習 前期 (三原組織)
- 11 基礎織演習 後期 (三原組織)
- 12 応用織演習Ⅰ 前期 (変化組織)
- 13 応用織演習Ⅰ 後期 (色糸効果)
- 14 応用織演習Ⅱ 前期 (自由制作)
- 15 応用織演習Ⅱ 後期 (自由制作)

【成果物】

- ・組織織見本帳、レポート

【評価の方法・基準】

□方法

組織織見本帳、レポート

□基準

織機の構造と、織組織の関連が理解できたか。・織物組織図の専門書を読み取ることが出来るようになったか。・織物組織図を理解して、応用制作が出来るようになったか。・織物組織専用シミュレーションソフトが操作できるようになったか。・織物組織専用シミュレーションソフトにて制作したオリジナル作品の評価。・織物作業の手順と作業内容の理解度。・織物の完成度と、組織織見本帳の成果。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□テキスト 組織授業用に制作したテキストを使用

□参考文献 ・A HANDWEAVER'S PATTERN BOOK Marguerite Porter Davison 著・WEAVES A Design Handbook Eleanor Best 著

・はじめての織物 荒木峰子著・ハンドウィービング 浜野義子・大作星乃・田中佳子・田中通子 共著・手織りの実技工房 吉田紘三 著

□参考資料 ・組織織見本帳

【実習名】 着尺
 【期 間】 11 月 19 日(火)～1 月 28 日(火)
 【教 室】 織工房 1・共通染場
 【担 当】 花城 美弥子 上原 里菜 (非)
 【課 題】 絹糸による縞・平織の着尺制作

【授業概要】 (テーマ)
 絹糸の取り扱い及び着物地 1 反を織り上げる

【到達目標】
 ・絹糸の取り扱いを学ぶ
 ・ふのりによる糊作り、糊付けの工程を学ぶ
 ・縞・平織で着物 1 反分を織り上げる

【授業計画・方法】

- 1 課題説明、作品鑑賞
- 2 織物デザイン
- 3 意匠設計
- 4 糸洗浄
- 5 経糸染色
- 6 糊作り・糊付け
- 7 糸繰り
- 8 整経
- 9 仮箄通し 経巻き
- 10 綜統通し
- 11 箄通し
- 12 織付け 試織
- 13 緯糸染め 管巻き
- 14 製織
- 15 洗い張り・アイロン仕上げ
 講評 作品・レポート提出

【成果物】
 ・着尺 1 反、レポート

【評価の方法・基準】

□方法

平常点 50% 作品 30% レポート 20%

□基準

絹糸の特性を理解したか(糊付け、染色)
 着尺制作工程を理解し計画的に作業工程をこなす事が出来たか。
 製織に意欲的に取り組めたか

【テキスト・参考文献(資料)等】

□参考文献 日本民藝館所蔵 沖縄染織第一巻 田中俊雄蒐集 沖縄織物裂地 発行 沖縄県立芸術大学附属研究所

【実習名】 仮仕立て

【期 間】 1 月 29 日(水)～2 月 3 日(月)

【教 室】 織工房 1・染織講義室

【担 当】 屋比久珠代(非)

【課 題】 着物の形態を理解しながら実習を通して仮縫い着物を仕上げる。

【授業の概要】 (テーマ)

各自織った反物を裁断し、長着に仮仕立てする。

【到達目標】

- ・反物を、着物のパーツに裁断し、縫い上げることで、着物の形、構成を理解する。
- ・着物の各部分名称や畳方などを学ぶ。
- ・完成品を通して、柄の配置、着用時の柄行きをイメージできるようにする。

【授業計画・方法】

- 1 着物の基本、各部分名称の説明
- 2 織(丈：織り傷など)反物の確認
- 3 身丈、袖丈の決定・身巾の決定
- 4 裾をそろえて畳み、裁断
- 5 身頃印付け
- 6 衿、袖・衽印付け
- 7 袖下縫い
- 8 背縫い
- 9 脇縫い
- 10 衽付け
- 11 衿下始末
- 12 衿付け
- 13 袖付け
- 14 脇、裾、衿始末
- 15 畳む

【成果物】

- ・仮縫い着物 レポート

【評価の方法・基準】

□方法

平常点 50% 作品 30% レポート 20%

□基準

着物の形態を理解し、仮縫いの技法を習得したか。
意欲的に取り組めたか

【テキスト・参考文献(資料)等

□テキスト 仮仕立てプリント

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25331	織Ⅱ	14 単位 通年	3	実技	真栄城 興茂 花城 美弥子 非常勤講師

■テーマ

織物の展開と可能性

■授業概要

天然繊維、天然染料等の素材研究、並びに織技法の実習を行う。

■到達目標

- ・織物素材の理解を深めると共に緯緋や織物組織等の織技法の習得を目指す。
- ・また意匠設計や製品開発等の研究成果を踏まえ、沖縄の伝統技法を基礎とした独自の表現力の向上を図る。

■授業計画・方法

1. 芭蕉・苧麻
2. 絹
3. 絹その他素材の見本・資料等の作成
4. 天然染料
5. 経緯緋 調査・研究
6. 経緯緋 製織
7. 経ずらし緋
8. CG 演習
9. 作品撮影
10. 服地制作 調査・研究
11. 服地制作 製織
12. 製品開発（服飾）
13. 研究制作 調査・研究
14. 研究制作 製織
15. 進級展への取り組みと実施 専攻合同講評会 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・課題説明・講評を無断で欠席した者は評価しない。
- ・各実習の詳細については該当ページをみる。
- ・やむを得ず欠席する場合は必ず学科室に連絡すること。
- ・各実習の終了時に作品を提出し、自己評価を含め講評を行う。

■成績評価の方法・基準

- 方法 作品 50%・平常点 30%・レポート 20%で総合的に評価する。
平常点は参加状況を総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
各課題の評価をもとに織教員の合議により総合判定する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 特になし
- テキスト CG 演習プリント、作品撮影プリント
- 参考文献 日本民藝館所蔵 沖縄染織品 第2巻 沖縄の織物 発行 沖縄県立芸術大学附属研究所
- その他 参考作品

- 【実習名】 素材研究（苧麻）
 【期 間】 4月8日(月)～4月19日(金)
 【教 室】 染織講義室 染色室 織実技室2
 【担 当】 神里佐千子（非）
 【課 題】 苧麻の表皮から繊維を採り、緯糸用の糸作りをして染色の後テーブルセンターを制作する。

【授業概要】（テーマ）

沖縄の伝統的な素材である苧麻の特質を考え、繊維を採る手順みの方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・素材である苧麻の手順みの工程、方法を学ぶ。
- ・苧麻糸の正しい扱い方を学ぶ。
- ・苧麻糸による緯絛作りと適正の製織を学ぶ。

【授業計画・方法】

- 1（課題説明） 昨年までの授業資料を参考にしながら苧麻糸の理解を深める。
- 2（苧引きブービキ） ブー引きナイフを使用し正しい苧引きの方法を学ぶ。
- 3（乾燥） 苧引きした苧麻を手順みし易いように陰干しする。
- 4（苧麻裂き） 水に浸して湿らせた苧麻を細く裂く方法を学ぶ。
- 5（撚り繋ぎ） 細く裂いた苧麻糸を結び目を作らずに指で撚り繋ぐ。
- 6（緯絛括り） 手結い絛の技法を用い適切な絛括りを行う。
- 7（総作り） 緯糸の地糸になる苧麻糸を切らさぬよう慎重に総上げする。
- 8（染色） 緯絛糸と緯地糸をムラ染にならぬように染色する。
- 9（絛解き） 水洗い仕上げした緯絛糸を乾燥後、絛解きを行う。
- 10（経糸の準備） 経糸用の麻糸を糸繰り・整経・仮篋・経巻して準備する。
- 11（綜紵・篋通し） 糸の順番を間違えぬよう正しく糸を通していく。
- 12（織り付け） 経糸の張り具合に気を付けながら織り付けする。
- 13（製織） 苧麻糸の特性を学びながら緯糸を織込んでいく。
- 14（緯絛合わせ） 手結いの技法で緯絛の図柄を織っていく。
- 15（仕上げ） 布目の整え方や始めと終わりのフサの処理を学ぶ。
作品・レポートを提出し講評会を行う。

【成果物】

- ・経：麻糸 緯：手順み苧麻糸のテーブルセンター

【評価の方法・基準】

□方法

作品 80 点 レポート 20 点

□基準

- 苧麻糸の手順みが適切になされているか。
- 苧麻糸の扱い方が適切か。
- 絛括り及び染色、製織が適正になされているか。
- 糸の処理、仕上げが適切か。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 「宮古上布～その手技～」 宮古上布保持団体発行

【実習名】 素材研究（芭蕉）

【期 間】 月 日（ ）～ 月 日（ ） 2020 年度 開講予定

【教 室】 染織講義室 染色室 織実技室2

【担 当】 未 定

【課 題】 糸芭蕉の原木から繊維を採り、緯糸用の糸作りをしてテーブルセンターを制作する。

【授業概要】（テーマ）

沖縄の伝統的繊維素材である糸芭蕉について、その特性を学ぶと共に織素材としての芭蕉への理解を深める。

【到達目標】

- ・素材である芭蕉の手続きの方法・工程を学ぶ。
- ・芭蕉糸の正しい扱い方を学ぶ。
- ・芭蕉糸を用いた緯緋作りと適正な製織を学ぶ。

【授業計画・方法】

- 1（課題説明） 昨年までの授業資料を参考にしながら芭蕉への理解を深める。
- 2（映像鑑賞） 平良敏子氏の芭蕉布作りのビデオ映像を鑑賞し芭蕉布の工程と歴史を学ぶ。
- 3（原木倒し・口割り） 糸芭蕉の正しい原木の倒し方や皮の剥ぎ方を学ぶ。
- 4（苧炊き） 剥いた苧を木灰汁に入れた鍋で数時間炊く。
- 5（苧引き） 手作りの竹バサミで裂いた原皮をしごいて不純物を取り除く。
- 6（乾燥） 水洗いして木灰汁を落とし、陰干しして乾燥させる
- 7（苧績み） 裂いた繊維を機結びで繋いぐ方法を学ぶ。
- 8（撚り掛け） 糸車を使用して芭蕉糸の撚り掛けを学ぶ。
- 9（経糸の準備） 経糸用の麻糸を糸繰・整経・仮箆・経巻を行う。
- 10（綜統・箆通し） 糸の順番を間違えぬよう慎重に経糸を通していく。
- 11（織付け） 経糸の張り具合を注意しながら織付けする。
- 12（製織） 芭蕉糸の特性を学びながら製織していく。
- 13（布の柔軟） 米を発酵させた液に織上げた布を浸け、中和し柔らかくする。
- 14（仕上げ） 布目の整え方、シワを伸ばす方法を学ぶ。
- 15（芭蕉布鑑賞） 芭蕉布の作品や裂を鑑賞しながら理解を深める。
作品・レポートを提出し講評会を行う。

【成果物】

- ・経：麻糸 緯：手続きの芭蕉糸のテーブルセンター及び糸見本

【評価の方法・基準】

□方法

作品 80 点 レポート 20 点

□基準

- 芭蕉糸の苧績みが適切になされているか。
- 芭蕉糸の扱い方が適切か。
- 緋括り及び染色、製織が適正になされているか。
- 糸の処理、仕上げが適切か。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□参考文献 平良敏子『平良敏子の芭蕉布』発行 NHK 出版

□参考資料 喜如嘉の芭蕉布の作品及び見本裂

【実習名】 素材研究（絹） 資料作成

【期 間】 4月22日(月)～ 4月26日(金)

【教 室】 染織講義室 染色室 織工房2

【担 当】 花城美弥子

【課 題】 養蚕を経験して、素材である絹糸と適合する染料及びデザイン、用途を検討しレポートにまとめる。

【授業概要】 (テーマ)

養蚕を通して繭及び絹についてその特性を学び、織物素材としての絹糸への理解を深める。

【到達目標】

- ・ 絹糸の成分、製糸工程を学び、その特性について理解を深める。
- ・ 絹糸に適したデザイン、用途について考え具体的な実例を学ぶ。
- ・ 絹糸が使用されてきた歴史的背景を学び、今後の課題、展開を検討する。

【授業計画・方法】

- 1 【課題説明】 昨年までの授業資料を参考にしながら、養蚕や絹糸への理解を深める。
- 2 【映像鑑賞】 沖縄の絹織物作品制作の映像を鑑賞し、現在の絹織物の現状を検討する。
- 3 【資料調査】 見本裂や作品集等を閲覧し、絹織物の特性を研究する。
- 4 【製糸】 製糸工程や使用する道具について学ぶ。
- 5 【撚糸】 製糸した絹糸の撚糸について学ぶ。
- 6 【糸繰り】 絹糸を木枠に巻く際の分け方や糸はたき等の手法を学ぶ。
- 7 【合成染料】 絹糸に適した合成染料について学ぶ。
- 8 【天然染料】 絹糸に適した天然染料について学ぶ。
- 9 【デザイン】 資料を閲覧しながら絹織物に適したデザインを学ぶ。
- 10 【用途】 絹織物とその用途との関連性について研究する。
- 11 【製織】 絹織物の作品制作において製織の注意点等を学ぶ。
- 12 【仕上げ】 絹織物作品の仕上げ方法を学ぶ。
- 13 【歴史】 絹糸が使用されてきた歴史的背景を学ぶ。
- 14 【課題・展開】 絹糸及び絹織物の今後の課題・展開を検討する。
- 15 【資料作成】 幾種類かの絹糸の糸見本を作成する。
レポートの提出、講評会

【成果物】

- ・ 絹糸の糸見帳

【評価の方法・基準】

□方法

見本帳制作 80% レポート 20%

□基準

絹糸の製糸方法について簡潔に説明出来るか。
絹糸の特質について説明出来るか。
絹糸の種類について説明出来るか。
絹織物について説明出来るか。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□参考資料 織作品・見本裂 (染織資料室)

□参考文献 織素材研究—上州座繰りと在来製糸技術 志村明 著

【実習名】素材研究（天然染料）

【期 間】5月6日(月)～5月10日(金)

【教 室】染場、織工房1

【担 当】北澤 勇二 (非)

【課 題】天然染料における染色条件などの確認実験、および各種媒染剤別発色のデータ染色

【授業の概要】（テーマ）

繊維製品の着色材料である染料には色素の由来から合成染料と天然染料に分けられ、原料の製造コストなどを理由に主に合成染料が用いられている。また天然染料は、その取り扱い方法（抽出条件、調液法、染色法など）の基準が定められておらず、各々の作家、また研究者によって様々な解釈がなされていることもあって、初学者が使用を控える傾向にある。ただ手工芸分野において、高付加価値性の製品は不可欠であることや、環境を配慮した材料や制作方法が求められることなどから、天然染料を主な着色材料として選択されることも事実である。本授業では、天然染料の染色に関わる材料および染色法を理論的に解説し、それに基づいた実験を通して天然染料の特徴や取り扱い方法、更に着色材料としても発色傾向などを学ぶものである。

【到達目標】

- ・天然染料各種の染色法について記述することができる。
- ・媒染染料系の仕組みと特徴について記述することができる。
- ・各種族別色素の特徴と発色について記述することができる。
- ・セルロース繊維に対するカチオン化の効果について記述することができる。

【授業計画・方法】

- 1 当該授業の位置づけ、日程の確認、提出課題の説明、天然染料の概要および参考事象
- 2 天然染料の各種族別染色法の相違／還元染料、直接染料、塩基性染料、媒染染料の違いと特徴
- 3 染料と媒染剤の関係についての実験／錯塩とレーキ、前処理と後処理の違い
- 4 各種植物繊維の発色性の違い／絹糸、綿糸、大麻糸、亜麻糸、苧麻糸、芭蕉糸、紙糸の紡績糸と手紡糸
- 5 染料濃度と抽出理論および抽出方法の種類
- 6 媒染の仕組みと各種媒染剤の特徴、溶解の方法、使用方法
- 7 フラボン類（カリヤス）の金属塩発色による染色実験
- 8 フラボノール類（エンジュ、タマネギ）の金属塩発色による染色実験
- 9 水溶性タンニン類（ザクロ、ヤシヤ）の金属塩発色による染色実験
- 10 縮合型タンニン類（ビンロウジュ、カテキュー）の金属塩発色による染色実験
- 11 アントラキノン類（コチニール、インドアカネ）の金属塩発色による染色実験
- 12 ベンゾピラン類（スオウ、ログウッド）の金属塩発色による染色実験
- 13 クロモン類（チョウジ）の金属塩発色による染色実験
- 14 カチオン化の効果を応用した演習／各自で選択した染料材料と媒染剤の組み合わせの実験
- 15 実験結果の確認と評価、問題点の発見と今後の課題について

【成果物】

- ・レポート（天然染料の実験手順書および考察）、実験結果を添付した標本帳

【評価の方法・基準】

□方法

レポート60％・平常点30％・コメントペーパー10％ により評価する

□基準

天然染料の内、特に媒染染料系についての染色性の特徴を説明できるか。

媒染の仕組みおよび効果について説明できるか。

各種族別の色素について、発色傾向を把握し説明できるか。

セルロース繊維に対するカチオン化の効果について説明できるか。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□教科書 染太郎の口伝帳「天然染料の巻 奥義相伝事」 染太郎 KITAZAWA 著（クラフトふう）

□テキスト 授業用配布テキスト「天然染料 実験ノート」

- 【実習名】 経緯緋
 【期 間】 5月20日（月）～6月28日（金）
 【教 室】 染織講義室 織実技室Ⅱ
 【担 当】 真栄城興茂 與那嶺利菜（非）
 【課 題】 経・緯緋を用いた緋作品を制作する

【授業概要】（テーマ）

沖縄の緋技法は、独特で数ある織技法の中でも代表的なものとなっている。資料調査を通して、伝統織物の特質を学ぶとともに、経緯緋の技法や織表現を学ぶ。

【到達目標】

- ・素材である絹糸の適切な扱い方を学ぶ。
- ・図柄に沿った正しい緋括り、ムラのない染色技法を学ぶ。
- ・経糸の柄・テンションに気を付け、緯緋糸の柄を合わせながらの緋織りの技法を学ぶ。

【授業計画・方法】

- 1 【課題説明】 昨年までの授業資料を参考にしながら、使用する糸の理解を深める。
- 2 【資料調査・意匠設計】 見本裂や作品集等を閲覧し、経緯緋のデザインを学び図柄を決定する。
- 3 【経緋糸の準備】 糸の湯洗浄後、糊付けしムラなく糊付けする方法と、その総の絞り方や干し方を学ぶ。
- 4 【糸繰り】 糸を木杵に巻く際の分け方や糸はたき等の手法を学ぶ。
- 5 【整経】 図案に沿って経緋糸を種類毎にテンションを保ちながら糸を揃える。
- 6 【マシン（真芯）】 図案の通り、板にくぎを打ち付け、それに経緋糸をかける。
- 7 【経緋糸の緋括り・染色】 ビニール紐とビニール袋を用い、図柄に合わせて強く括り染色する。
- 8 【経緋糸の柄合わせ】 緋解きした経緋糸を図案に合わせて配列し、縞、地糸を整経する。
- 9 【仮箄】 経緋糸、縞、地糸を図案に合わせて織幅に割り込みする。
- 10 【経巻】 緋柄や全体のテンションに気を付け、機草（紙）を差しこみながら経糸を巻き取る。
- 11 【綜統・箄通し】 経糸の順番を間違えないよう、慎重に箄通しを行う。
- 12 【緯緋糸の準備】 小総上げた緯緋糸の必要量を図柄に合わせてビニール紐等で括る。
- 13 【緯緋糸と緯地糸の染色】 水洗い仕上げし、乾いた後、緋ほどきを行い織付けの準備を行う。
- 14 【製織】 経糸の柄・テンションに気を付け、緯緋糸の柄を合わせながら織る。
- 15 【作品仕上げ】 洗い張りとアイロン掛けを行い、布目の整え方を学ぶ。

作品・レポートの提出、講評会

【成果物】

- ・織布（ストール）

【評価の方法・基準】

□方法

課題作品 80％ レポート 20％

□基準

意匠設計が各自のデザイン発想との繋がっているか。

素材である絹糸の扱い方が適切か。

緋括り及び染色、製織が適正になされているか。

織機や道具類の扱い方が適切か。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□参考文献 日本民藝館所蔵 沖縄染織品 第2巻 沖縄の織物 発行 沖縄県立芸術大学附属研究所

【実習名】経ずらし絣

【期 間】7月 1日(月)～ 7月 24日(水)

【教 室】織工房1、織工房3、染場

【担 当】柳 悦州 (客)、上原 悠加 (非)

【課 題】経ずらし絣による織物制作

【授業の概要】 (テーマ)

植物のスケッチからモチーフを選び、経ずらし絣を使った織物デザインへと展開させる。

織物設計図を完成させ、織物制作過程の計画を立てる。

経ずらし絣技法の基礎を学習する。

【到達目標】

- ・スケッチからデザインを起こすという織物デザイン創作の過程を学習する。
- ・リピートとシンメトリーを応用した織物デザインを理解し使えるようになる。
- ・織物制作の工程を理解し、時間を効果的に使えるようになる。

【授業計画・方法】

- 1 課題説明。
- 2 スケッチとモチーフの選定。
- 3 リピートとシンメトリーを利用し、経ずらし織物イメージデザインへ展開させる。
- 4 織物完成予想図を作る。
- 5 織物設計図を作る。
- 6 使用する糸の前処理。地色の染色。糊付け。
- 7 整経作業。
- 8 絣の位置決め、括り作業。
- 9 絣の染色。
- 10 経糸の糊付け、張りのばし。
- 11 荒箆通し。
- 12 経ずらし作業。
- 13 経糸の巻き込み作業。
- 14 製織準備作業（綜紬通し、箆通し）。
- 15 試織、緯糸の染色。製織作業。

【成果物】

- ・作品、スケッチ、織物デザイン、織物設計図、レポート

【評価の方法・基準】

□方法

平常点 70%、レポート 30%

□基準

モチーフからリピートとシンメトリーを応用し織物デザインを作ること的理解したか、織物の制作工程を理解し、効率的に時間を使えるようになったのか等を観点に平常点を付ける。

レポートでは、工程や技法を理解できたのか、また自分の制作に対する考察が適切に述べられているかを基準として採点する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□教科書 特になし

□参考文献 日本民藝館所蔵 沖縄染織品 第2巻 沖縄の織物 発行 沖縄県立芸術大学附属研究所

【実習名】CG演習（基礎）**【期 間】** 7月25日(木)～ 7月31日(水)**【教 室】** コンピューター室**【担 当】** 鈴木 律子（非）**【課 題】** コンピューターによるテキストスタイルデザイン作成に必要な基本操作を習得する。
グラフィックソフトを使用し、テキストスタイルデザインを作成する。**【授業の概要】（テーマ）**

グラフィックソフト（Adobe Illustrator, Adobe Photoshop）を使用し、織の模様や図柄、配色パターンを検討しテキストスタイルデザインを完成させる。完成したデザインの仕上がりイメージや展示シミュレーションを作成する。

【到達目標】

- ・グラフィックソフトの基本操作を習得する。
- ・手描きのスケッチで考えたアイデアをグラフィックソフトを使いテキストスタイルデザインを完成させる。
- ・模様のサイズ、配置、配色を検討しながら完成度の高いテキストスタイルデザインを目指す。

【授業計画・方法】

- 1 Adobe Illustrator 基本操作
- 2 Adobe Illustrator 図柄を作成するときによく使うツールや機能
- 3 Adobe Illustrator 図形の描き方、パスの作成
- 4 Adobe Illustrator パスの編集
- 5 Adobe Illustrator アンカーポイントの変更
- 6 Adobe Illustrator ベジエ曲線を使ったトレース方法
- 7 Adobe Illustrator オブジェクトの編集、カラーの編集
- 8 Adobe Illustrator 縞模様のトレース
- 9 Adobe Illustrator 図案を作成する 前期（ラフスケッチ、アイデア出し）
- 10 Adobe Illustrator 図案を作成する 中期（オブジェクト、パスの作成、編集）
- 11 Adobe Illustrator 図案を作成する 後期（配色パターン）
- 12 Adobe Illustrator 着尺の仕上がりイメージを作成する
- 13 Adobe Photoshop 基本操作
- 14 Adobe Photoshop 写真を使って展示シミュレーションを作成する
- 15 Adobe Illustrator 印刷物作成の基礎知識（DM、名刺など）

【成果物】

- ・テキストスタイルデザイン（配色を変え3パターン完成させA3サイズに出力）

【評価の方法・基準】**□方法**

課題50%・平常点50%で総合的に評価する。

□基準

コンピュータの基本操作ができるか

グラフィックソフトを使用してテキストスタイルデザインが作成できるか。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□テキスト CG演習プリント

【実習名】 作品撮影

【期 間】 10月1日(火)～10月4日(金)・11月5日(火)

【教 室】 コンピューター室

【担 当】 小高 政彦 (非)

【課 題】 写真撮影の基礎知識とコンピュータの基本操作を習得する。
グラフィックソフトを使用し、ポートフォリオを作成する。

【授業の概要】 (テーマ)

自らの作品を素材として、撮影、加工、編集といった一連の作業をデジタルワークフロー上で行い、グラフィックソフト (Adobe Photoshop、Adobe Illustrator) を使用し、A4 サイズ (2 枚以上) のポートフォリオの完成を目指す。完成したポートフォリオをもとにプレゼンテーションを行い、工夫点等を発表する。

【到達目標】

- ・写真撮影の基礎知識を習得する。
- ・コンピュータの基本操作を習得する。
- ・グラフィックソフトを使用し、ポートフォリオの作成方法を学ぶ。
- ・プレゼンテーションの方法を学ぶ。

【授業計画・方法】

- 1 ガイダンス
- 2 カメラの構造
- 3 デジタルカメラの使い方
- 4 写真撮影の基礎知識 前期 (シャッタースピード、絞り、ISO 感度、相反則等)
- 5 写真撮影の基礎知識 中期 (被写界深度、色温度等)
- 6 写真撮影の基礎知識 後期 (ストロボの使い方、ライティング等)
- 7 コンピュータの基本操作
- 8 グラフィックソフトの基本操作 前期 (Adobe Photoshop によるスキャニング、色調補正等)
- 9 グラフィックソフトの基本操作 後期 (Adobe Illustrator による配置、レイアウト等)
- 10 グラフィックソフトの応用操作 前期 (Adobe Photoshop による角度調整、ゆがみ補正等)
- 11 グラフィックソフトの応用操作 後期 (Adobe Illustrator によるテキストボックス、ペンツール等)
- 12 グラフィックソフトの発展操作 前期 (Adobe Photoshop による画像合成等)
- 13 グラフィックソフトの発展操作 後期 (Adobe Illustrator によるプリントアウト、カラーマッチング等)
- 14 課題プレゼンテーション
- 15 講評

【成果物】

- ・ポートフォリオ (A4 サイズ 2 枚以上)、デジタル写真

【評価の方法・基準】

□方法

作品提出 50%・プレゼンテーション 20%・平常点 30%で総合的に評価する。

□基準

- ・コンピュータの基本操作ができるか。
- ・ストロボを使用した写真撮影ができるか。
- ・グラフィックソフトを用いて、ポートフォリオを作成できるか。
- ・適切なプレゼンテーションができているか。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

- テキスト 作品撮影プリント

- 【実習名】 服地制作
【期 間】 10月7日(月)～11月29日(金)
【教 室】 織工房1・共通染場
【担 当】 真栄城興茂、花城美弥子、下地康子(非)
【課 題】 各自のテーマを基に自由に服地制作を行う

【授業概要】 (テーマ)

繊維と織物技法、用途等の条件を踏まえ、各自のテーマに基づき制作する。

【到達目標】

- ・服地に適した繊維素材や織物技法の選択を適切に行い、制作を行う。

【授業計画・方法】

- 1 課題説明
- 2 制作計画書の作成(織物デザイン)
- 3 制作計画書の作成(意匠設計)
- 4 繊維素材・糸選択
- 5 糸洗浄
- 6 経糸染色
- 7 糸繰り 整経
- 8 仮成通し 経巻き
- 9 綜統通し
- 10 蔑通し
- 11 織付け
- 12 緯糸染め
- 13 製織
- 14 仕上げ
- 15 講評・レポート提出

【成果物】

- ・作品、レポート

【評価の方法・基準】

□方法

平常点 30% 作品 50% レポート 20%

□基準

服地に適した織地を制作できたか。
意欲的に取り組めたか

【テキスト・参考文献(資料)等】

□参考資料 参考作品

□参考文献 『モードのジャポニズム キモノから生まれたゆとりの美』発行 京都服飾文化研究財団

- 【実習名】 製品開発（服飾）
【期 間】 12月2日（月）～12月6日（金）
【教 室】 染織講義室 織実技室2
【担 当】 小渡 むつき（非）
【課 題】 手仕事によるテキスタイル製品について幅広く調査を行い、データを作成する。与えられたテーマを基に制作された織生地をパターン（整図）まで行う。

【授業概要】 （テーマ）

デザイン、制作、マーケティングを総合的に調査研究し生活文化に豊かさを提供する新たな染織工芸の企画立案やネットワーク形成の可能性を試みる。

【到達目標】

- ・手織りの布がどのように服飾に利用されてきたかを学ぶ。
- ・織り布とデザイン、寸法との関連性を学ぶ。
- ・服飾品に適した織り布の風合い等を検討する。

【授業計画・方法】

- 1（課題説明） 織物、染め物の素材を洋服にしたアイテム資料の説明
- 2（素材研究） 染織物の生地の厚みや種類によって服飾品との適合性を学ぶ。
- 3（デザイン研究） オートクチュールの素材や外国製の生地見本を参考にしながらデザイン研究を行う。
- 4（用尺） 服飾品の種類別に分け、それぞれの必要な用尺を検討する。
- 5（整図） 洋服を制作する上での製図（パターン）の置き方を学ぶ。
- 6（裁断） 生地を裁断する際の気を付ける点を学ぶ。
- 7（ピンワーク） 好きなアイテムを基にデザインをイメージしドレーピングをしながらピンの打ち方を学ぶ。
- 8（立体） 生地を立体的にボディーに巻き付ける方法を学ぶ。
- 9（ボディースケッチ） ボディーにドレーピングし各自でデザインした服をスケッチする。
- 10（人物デザイン） スケッチの後、それを基に12頭身の人物デザイン画として仕上げる方法を学ぶ。
- 11（デザイン画） デザイン画の描き方、注意点を学ぶ。
- 12（コンテストデザイン） コンテスト用のデザイン画の描き方を学ぶ。
- 13（ネクタイ） ネクタイ製作のパターンを学ぶ。
- 14（ネクタイ裏地） ネクタイ制作の芯、裏地等の取り方を学ぶ。
- 15（ネクタイ用尺） ネクタイに必要な生地の用尺の検討とはぎ位置の付け方を学ぶ。
デザイン画を参考にしながら講評会を行う。

【成果物】

- ・マーケティング資料とネクタイ

【評価の方法・基準】

□方法

デザイン画 80% レポート 20%

□基準

服飾品の種類などについての理解力をはかる。
適切な方法でデザイン画が描かれているか。
素材と配色を含めた服飾デザインが適正であるか。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考資料 外国製ファッションブック等

- 【実習名】 研究制作
【期 間】 12月9日(月)～2月3日(月)
【教 室】 織工房1・共通染場
【担 当】 真栄城興茂、花城美弥子
【課 題】 各自のテーマを基に研究制作を行う。

【授業概要】 繊維や織物技法の選択を行い、各自のテーマに基づき制作する。

【到達目標】

- ・これまでに修得した織物技法を応用し、自己のテーマに添った作品を制作し、織物制作への理解を深める。
- ・展示発表を前提として制作を行い、作品の展示方法についても学ぶ。

【授業計画・方法】

- 1 課題説明
- 2 制作計画書の作成（織物デザイン）
- 3 制作計画書の作成（意匠設計）
- 4 繊維素材・糸選択
- 5 糸洗浄 経糸染色
- 6 糸繰り 整経
- 7 仮葎通し 経巻き
- 8 綜統通し
- 9 葎通し
- 10 織付け試織
- 11 緯糸染め
- 12 製織
- 13 仕上げ
- 14 展示
- 15 講評・レポート提出

【成果物】

- ・作品、レポート

【評価の方法・基準】

□方法

平常点 30% 作品 50% レポート 20%

□基準

テーマに添った繊維や糸の選択が適切であったか。
織物技法が適切に使用され、計画的に織物制作が出来たか。
意欲的に取り組めたか。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 大城志津子『大城志津子 作品集』発行 株式会社 用美社

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25332	織Ⅲ	15 単位 通年	4	実技	真栄城 興茂 花城 美弥子 非常勤講師

■テーマ

卒業制作

■授業概要

これまで修得した理論及び技法の応用展開により、自らの研究テーマを定め、より高度で個性的な卒業制作を行う。
教員の実務経験を背景にした指導を行い、地域社会との連携を念頭に具体的な方法論を実践的に学ぶ。

■到達目標

- ・染織技法や素材、工程等の調査研究に基づき自らの研究テーマを決定し、これまでに学んだ知見や習得した技法等を最大限に活かした質の高い作品を制作することを目指す。

■授業計画・方法

1. 芭蕉 芭蕉糸の仕組み方法を学ぶ
2. 芭蕉 経糸・麻糸 緯糸・芭蕉糸での製織
3. 産地見学 大宜味村喜如嘉の芭蕉布 本部町伊豆味の琉球藍の見学
4. 産地研修 久米島紬の調査・研究
5. 卒業制作 卒業制作作品の各自の構想について面談を行う
6. 卒業制作 デザイン 意匠設計
7. 卒業制作 使用する素材、染料の調査・研究
8. 卒業制作 織技法の検討
9. 卒業制作 試染・試織
10. 卒業制作 本制作で使用する素材・染料の準備
11. 卒業制作 本制作
12. 卒業制作 作品の仕立て加工の検討
13. 卒業制作 作品の展示方法・展示道具についての検討
14. 卒業制作 作品仕上げ
15. 卒業制作 作品判定 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・やむを得ず欠席する場合は必ず学科室に連絡すること。
- ・実習（芭蕉）の詳細については該当するページを見ること。
- ・実習（芭蕉）の終了時に作品を提出し、自己評価を含め講評を行う。
- ・実習（芭蕉）は課題説明・講評を無断で欠席した者は評価しない。

■成績評価の方法・基準

【方法】 平常点 30%・作品 70%で総合的に評価する。

平常点は参加状況を総合的に評価する。

【基準】 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

織教員の合議により総合判定する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書 特になし

□テキスト 必要に応じて適宜指示、紹介する

□参考文献 平良敏子『平良敏子の芭蕉布』発行 NHK 出版 志村ふくみ『つむぎおり』発行 求龍堂

□その他 参考作品

- 【実習名】 素材研究（苧麻）
 【期 間】 4月8日(月)～4月19日(金)
 【教 室】 染織講義室 染色室 織実技室2
 【担 当】 神里佐千子（非）
 【課 題】 苧麻の表皮から繊維を採り、緯糸用の糸作りをして染色の後テーブルセンターを制作する。

【授業概要】 （テーマ）

沖縄の伝統的な素材である苧麻の特質を考え、繊維を採る手続みの方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・素材である苧麻の手続みの工程、方法を学ぶ。
- ・苧麻糸の正しい扱い方を学ぶ。
- ・苧麻糸による緯絛作りと適正の製織を学ぶ。

【授業計画・方法】

- 1（課題説明） 昨年までの授業資料を参考にしながら苧麻糸の理解を深める。
- 2（苧引きブービキ） ブー引きナイフを使用し正しい苧引きの方法を学ぶ。
- 3（乾燥） 苧引きした苧麻を手続みし易いように陰干しする。
- 4（苧麻裂き） 水に浸して湿らせた苧麻を細く裂く方法を学ぶ。
- 5（撚り繋ぎ） 細く裂いた苧麻糸を結び目を作らずに指で撚り繋ぐ。
- 6（緯絛括り） 手結い絛の技法を用い適切な絛括りを行う。
- 7（総作り） 緯糸の地糸になる苧麻糸を切らさぬよう慎重に総上げる。
- 8（染色） 緯絛糸と緯地糸をムラ染にならぬように染色する。
- 9（絛解き） 水洗い仕上げした緯絛糸を乾燥後、絛解きを行う。
- 10（経糸の準備） 経糸用の麻糸を糸繰り・整経・仮箆・経巻して準備する。
- 11（綜紵・箆通し） 糸の順番を間違えぬよう正しく糸を通していく。
- 12（織り付け） 経糸の張り具合に気を付けながら織り付けする。
- 13（製織） 苧麻糸の特性を学びながら緯糸を織込んでいく。
- 14（緯絛合わせ） 手結いの技法で緯絛の図柄を織っていく。
- 15（仕上げ） 布目の整え方や始めと終わりのフサの処理を学ぶ。
作品・レポートを提出し講評会を行う。

【成果物】

- ・経：麻糸 緯：手続み苧麻糸のテーブルセンター

【評価の方法・基準】

□方法

作品 80 点 レポート 20 点

□基準

- 苧麻糸の苧績みが適切になされているか。
- 苧麻糸の扱い方が適切か。
- 絛括り及び染色、製織が適正になされているか。
- 糸の処理、仕上げが適切か。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 「宮古上布～その手技～」 宮古上布保持団体発行

- 【実習名】 素材研究（芭蕉）
 【期 間】 月 日（ ）～ 月 日（ ） 2020 年度 開講予定
 【教 室】 染織講義室 染色室 織実技室2
 【担 当】 未 定
 【課 題】 糸芭蕉の原木から繊維を採り、緯糸用の糸作りをしてテーブルセンターを制作する。

【授業概要】（テーマ）

沖縄の伝統的繊維素材である糸芭蕉について、その特性を学ぶと共に織素材としての芭蕉への理解を深める。

【到達目標】

- ・素材である芭蕉の手績みの方法・工程を学ぶ。
- ・芭蕉糸の正しい扱い方を学ぶ。
- ・芭蕉糸を用いた緯絰作りと適正な製織を学ぶ。

【授業計画・方法】

- 1（課題説明） 昨年までの授業資料を参考にしながら芭蕉への理解を深める。
- 2（映像鑑賞） 平良敏子氏の芭蕉布作りのビデオ映像を鑑賞し芭蕉布の工程と歴史を学ぶ。
- 3（原木倒し・口割り） 糸芭蕉の正しい原木の倒し方や皮の剥ぎ方を学ぶ。
- 4（苧炊き） 剥いだ苧を木灰汁に入れた鍋で数時間炊く。
- 5（苧引き） 手作りの竹バサミで裂いた原皮をしごいて不純物を取り除く。
- 6（乾燥） 水洗いして木灰汁を落とし、陰干しして乾燥させる
- 7（苧績み） 裂いた繊維を機結びで繋いぐ方法を学ぶ。
- 8（撚り掛け） 糸車を使用して芭蕉糸の撚り掛けを学ぶ。
- 9（経糸の準備） 経糸用の麻糸を糸繰・整経・仮篋・経巻を行う。
- 10（綜紵・篋通し） 糸の順番を間違えぬよう慎重に経糸を通していく。
- 11（織付け） 経糸の張り具合を注意しながら織付けする。
- 12（製織） 芭蕉糸の特性を学びながら製織していく。
- 13（布の柔軟） 米を発酵させた液に織上げた布を浸け、中和し柔らかくする。
- 14（仕上げ） 布目の整え方、シワを伸ばす方法を学ぶ。
- 15（芭蕉布鑑賞） 芭蕉布の作品や裂を鑑賞しながら理解を深める。
作品・レポートを提出し講評会を行う。

【成果物】

- ・経：麻糸 緯：手績みの芭蕉糸のテーブルセンター及び糸見本

【評価の方法・基準】

□方法

作品 80 点 レポート 20 点

□基準

芭蕉糸の苧績みが適切になされているか。
 芭蕉糸の扱い方が適切か。
 絰括り及び染色、製織が適正になされているか。
 糸の処理、仕上げが適切か。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 平良敏子『平良敏子の芭蕉布』発行 NHK 出版
- 参考資料 喜如嘉の芭蕉布の作品及び見本裂

【実習名】 卒業制作

【期 間】 4月22日(月)～2月3日(月)

【教 室】 織工房1・共通染場

【担 当】 真栄城興茂、花城美弥子

【課 題】 各自のテーマを基に完成度の高い、個性的な作品を制作する。

【授業概要】

使用する繊維や織物技法の選択を行い、卒業作品1点の制作を行う。

月1回全体のミーティングを行い、作品について各自プレゼンテーションを行う。

【到達目標】

- ・ これまでに修得した織物技法を応用し、自己のテーマに添った作品を制作し、織物制作への理解を深める。
- ・ 展示発表を前提として制作を行い、作品の展示方法についても学ぶ。

【授業計画・方法】

- 1 課題説明
- 2 制作計画書の作成（織物デザイン）
- 3 制作計画書の作成（意匠設計）
- 4 繊維素材・糸選択
- 5 試織（糸染色）
- 6 試織（製織）
- 7 プレゼンテーション
- 8 産地研修
- 9 作品制作（糸染色）
- 10 作品制作（経糸準備・緯糸準備）
- 11 作品制作（製織）
- 12 仕上げ
- 13 織分野講評会
- 14 工芸専攻全体講評会
- 15 織物制作資料表提出

【成果物】

- ・ 作品、織物制作資料表

【評価の方法・基準】

□方法

平常点30％ 作品60％ 織物制作資料表10％

織分野教員の合議により総合判断する。

□観点・基準

テーマに添った繊維や糸の選択が適切であったか。

織物技法が適切に使用され、計画的に卒業作品の制作が出来たか。

意欲的に取り組むことが出来たか。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□参考資料 制作内容に適宜指示する。

□参考文献 日本民藝館所蔵 沖縄染織品 第2巻 沖縄の織物 発行 沖縄県立芸術大学附属研究所